

2022年12月4日(日)午前10時30分

《待降節(アドベント)第2主日》

《神の御前に近づく》

前 奏

招 詞

詩編 24 編 9~10 節

頌 栄

24 (たたえよ、主の民)

主の祈り

*下記をご覧ください。

讃 美

242※1, 2のみ(主を待ち望むアドヴェント) **

交 読

『交読詩編』19:8~11(25頁、上段「主の律法は…」)

信仰告白

日本基督教団信仰告白*2 ページ目をご覧ください。

《神のみ言葉の宣教と聖礼典》

聖 書

旧約 イザヤ書 61:1~3 (旧約 1162 頁)

新約 ルカによる福音書 4:16~21 (新約 107 頁)

祈 り

讃 美

231※1, 3のみ(久しく待ちにし) **

説 教

『主の恵みの年』 疋田義也 牧師

祈 り

讃 美

261※(もろびとこぞりて) **

聖 餐

疋田國磨呂 牧師

《神への応答》

感謝の祈り

讃 美

81※奏楽のみです(主の食卓を囲み)

献 金

頌 栄

29 (天のみ民も)

《祝福と派遣》

派遣・祝祷

報 告

後 奏

**讃美歌は短めとなります。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくはみ名をあげさせたまえ。
み国を来たさせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄とは
限りなくなんじのものなればなり。
アーメン。

※本庄教会の礼拝では
聖書は『新共同訳』を
讃美歌は『讃美歌 21』
を

日本基督教団信仰告白

われ しん こくはく
我らは信じかつ告白す。

きょうしんやくせいしよ かみ れいかん な あかし ふくいん しんり
旧新約聖書は、神の靈感によりて成り、キリストを証し、福音の真理
しめ きょうかい よ ゆいいつ せいてん せいしよ せいれい
を示し、教会の拠るべき唯一の正典なり。されば聖書は聖霊に
かみ すくい まった ちしき われ あたう かみ
よりて、神につき、救ひにつきて、全き知識を我らに与ふる神の
ことば しんこう せいかつ あやま きはん
言にして、信仰と生活との誤りなき規範なり。

しゅ けいじ せいしよ あかし
主イエス・キリストによりて啓示せられ、聖書において証せらるる
ゆいいつ かみ ちち こ せいれい さんみいつたい かみ まう
唯一の神は、父・子・聖霊なる、三位一体の神にていましたまふ。
み こ われ つみびと すく ひと な じゅうじか
御子は我ら罪人の救ひのために人と成り、十字架にかかり、ひとた
おのれ まった いけにえ かみ われ あがない え
び己を全き犠牲として神にささげ、我らの贖ひとなりたまへり。
かみ めぐ われ えら しん しんこう われ
神は恵みをもて我らを選び、ただキリストを信ずる信仰により、我
つみ ゆる ぎ もう かわ めぐ せいれい
らの罪を赦して義としたまふ。この変らざる恵みのうちに、聖霊は
われ きよ ぎ み むす みわざ じょうじゅ もう
我らを潔めて義の果を結ばしめ、その御業を成就したまふ。

きょうかい しゅ からだ めぐ め もの つどい
教会は主キリストの体にして、恵みにより召されたる者の集ひなり。
きょうかい おおやけ れいはい まも ふくいん ただ の つたえ しゅ ばんさん
教会は公の礼拝を守り、福音を正しく宣べ伝へ、バプテスマと主の晩餐
せいれいてん と おこな あい はげ しゅ ふたた きた もう ま
との聖礼典を執り行ひ、愛のわざに励みつつ、主の再び来りたまふを待
のぞ
ち望む。

われ しん よよ せいと とも しとしんじょう こくはく
我らはかく信じ、代々の聖徒と共に、使徒信条を告白す。

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

我はそのひとり子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがへり、天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。

我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、からだのよみがへり、とこしえのいのちを信ず。

アーメン。